

## ■ 基本的にユーロ/ドルの目線は下向き！？

前回更新分の本欄では、まずドル/円の月足ロウソクについて10月末時点で月足・終値が31カ月線を上抜ける動きとなったことに注目した。31カ月線は現在113.45円に位置しており、11月に入ってから執筆時までには同水準（113.45円あたり）が下値を支えるような格好となっている。ある意味でセオリーどおりの展開となっているわけであるが、この11月の月足・終値でも31カ月線を上抜けるかどうかということも実は非常に重要。引き続きウォッチングし続けたい。

加えて、前回更新分ではユーロ/ドルの日足チャート上において「ヘッド・アンド・ショルダーズ・トップ（三尊天井）」が完成した点にも触れた。そして、これまた今のところセオリーどおりにネックラインとなった水準が「三尊天井」完成後の上値抵抗となっている。

最も化「典型的」とされる「転換保ち合いフォーメーション」が完成したのだから、そのトップとなった9/8高値＝1.2093ドルをもって今年年初からの上昇トレンドは終了し、以降は下降トレンドに転換した可能性が高い。そして、下図にも見るように、9/8日に直近高値をつけてからは「以降の高値を結ぶラインとそれに平行して10/6安値を通るライン（図中赤点線）」と下降チャネルが形成されていることがわかる。

この下降チャネルの下辺は年内にも1.1200-1.1300ドル処まで水準が低下して行く。そして現在、同水準には200日線が伸びてきている。考えてみれば、ユーロ/ドルの年初の安値＝1.0340ドルから直近高値1.2093ドルまでの上げに対する半値（50%）押し水準というのが1.1200ドル台前半の水準に位置する。さらに、三尊天井完成後の当面の下値の目安をセオリーに基づいて弾き出した値も、やはり1.1200ドル台前半という水準になる。それは、三尊天井のトップからネックラインまでの値幅と同じ値幅をネックラインから下方にとった値であり、これは中期的に意識されやすいところであると思われる。

もっとも、目先は1.1600ドル処をクリアに下抜けるかどうかの一つの焦点。下抜けてきた場合には、まず31週線（現在は1.1490ドル処に位置）が意識されやすく、同水準をも下抜けた場合には、前述した「年初からの値上がり幅に対する38.2%押し＝1.1420-30ドル処」が下値の目安になりやすいものと見られます。



思えば、ユーロ/ドルが89日線と三尊天井のネックラインを一気に下抜ける引き金となったのは10/26のECB理事会の決定とドラギ総裁の発言でした。来年1月以降のECBによる金融政策の運営方針は市場を大いに失望させたわけですが、ECBの判断の背後には想定されるユーロ高の悪影響のみならず、やはり最近の欧州政治情勢の混乱が域内経済に停滞をも足らず可能性があることと大きく関わっているものと思われます。それは必ずしも一時的なものではないということも再認識しておきたいところです。

(11月09日 12:10)